

神経内科

(スタッフ)

部長 : 麻生 泰弘
 副部長 : 石橋 正人
 : 岡崎 敏郎
 主任医師 : 佐藤 龍一 (3月まで)
 : 水上 健 (3月まで)
 : 上杉 聡平 (4月から)
 : 安高 拓弥 (4月から)
 専攻医 : 大成 佳奈 (10月から)

2022年は3月に佐藤医師と水上医師が大分大学へ転出し、上杉医師と安高医師が赴任しました。また、週2日の外来を担当した後藤医師は5月末で退職しました。10月からは産業医科大学より専攻医として大成医師が赴任されました。

(診療実績)

外来患者数は新患1,037名、再来患者9,236名でした(表1)。新患・再来とも増加した理由はCOVID-19による受診控えが減少した影響と考えています。入院患者数が若干減少した理由はCOVID-19流行による病床逼迫で応需できない事例が多かった為です。入院患者の疾患内訳では脳血管障害が最多でした(表2)。血栓溶解・回収療法の施行数は今年の約2倍でした(表3)。

(研修・教育)

医学生の臨床実習では総勢13名(大分大学から12名、自治医科大学から1名)が当科で実習しました(表4)。初期研修医は例年と比較して1年次が少なく、2年次が多い傾向でした。大分県立看護科学大学からはNPナース取得のための研修に1名の看護師が実習に来ました。

(今後の方向性)

神経救急疾患や神経難病などの様々な神経疾患診療に貢献できるよう、県下の医療機関との連携を充実させていきます。さて、高齢化社会の課題の一つに介護問題があります。要介護の原因の第1位は認知症ですが、その最大の原因であるアルツハイマー病については、近々に新規治療薬が登場します。その際に当院が果たす役割は大きいと考えています。脳血管障害については、急性期脳梗塞に対する24時間体制の診療提供、適切な予防治療・再発予防介入、リハビリ病院との連携を充実させていきます。また、神経難病をはじめ多くの神経疾患に対して新規治療法が開発されています。良い治療は積極的に導入していく予定です。最後に、当院は日本神経学会と日本認知症学会の専門医教育施設です。医学生や研修医、様々な医療スタッフを教育することや、大分県に神経内科医を増やすことも大事な役割と考えています。
(文責：麻生泰弘)

表1 外来患者数・入院患者数の推移 (単位：人)

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
外来患者数	新患	1,222	1,156	880	921	1,037
	再来	11,467	11,877	9,444	8,255	9,236
入院患者数	実数	485	485	454	457	425
	延べ数	10,739	11,595	8,870	8,795	8,761

表2 疾患別入院患者数

入院患者総数 425名			
脳脊髄血管障害	130名	脊髄・脊椎疾患 5名	
脳梗塞	121名	脊髄・脊髄疾患	4名
一過性脳虚血発作	7名	HTLV-1関連脊髄症	1名
脳出血	1名	末梢神経障害	24名
脊髄梗塞	1名	CIDP	12名
髄膜炎・脳炎・脳症	45名	GBS / Fisher症候群	4名
髄膜炎・髄膜炎	17名	その他	8名
脳炎	17名	筋疾患・神経筋接合部疾患	24名
脳症	11名	皮膚筋炎 / 多発筋炎	5名
脱髄性疾患	15名	横紋筋融解症	2名
視神経脊髄炎	6名	重症筋無力症	9名
多発性硬化症	6名	その他	8名
ADEM	3名	その他	129名
変性疾患	53名	てんかん	29名
アルツハイマー病	1名	COVID-19	8名
パーキンソン病	15名	脳腫瘍	4名
レビー小体型認知症	2名	脳膿瘍	3名
進行性核上性麻痺	2名	肺炎・尿路感染症など	12名
多系統萎縮症	3名	急性薬物中毒	7名
脊髄小脳変性症	16名	頭部外傷	3名
ALS/運動ニューロン疾患	8名	その他	63名
その他	6名		

表3 脳梗塞急性期のrt-PA・血栓回収療法施行件数

(単位：人)		
	2021年	2022年
rt-PA療法	7	10
血栓回収療法	5	12

表4 学生・研修医の実習状況 (単位：人)

		2020年	2021年	2022年
医学生		5	5	13
看護学生 (NP研修)		2	1	1
初期臨床研修医	1年次	5	9	3
	2年次	11	6	11